

## 自己点検・評価 報告書 (令和4年度)

学校法人 武田学園  
専門学校ビーマックス

### 1. 専門学校ビーマックスの教育目標

創設時の岡山会計学館 経理専門学校時代より一貫して大切にしていることは、社会に出て活躍できる人財を輩出することである。具体的には以下の文言で共有している。

- ・明るく・素直に・元気に働き続けられる人を育成すること
- ・数字に強くなり、所属した組織で重要な仕事を任される人を育てること
- ・夢を抱き、その実現のために積極的・献身的に学び、働き、周囲を巻き込んでいく人を育成すること。

そのために、専門力育成に特化したカリキュラム編成ではなく、人間力向上にも重きを置いてカリキュラムを組んでいる。また、教職員にも自らの専門領域に閉じこもることが無いように指導している。経験の無いこと、前例の無いこと、学外での取り組み等にも果敢に挑戦し、自らの人としての幅を広げて行くことを推奨している。学生も教職員も共に成長し続けるために、チャレンジの場を数多く提供することが、当校の存在価値を高めると考えている。

### 2. 令和4年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画

令和4年度の重点項目は以下の3点であった。

- ① カリキュラム再構築  
内容・実施方法を大幅に変更して実施（新入生研修、全学科共通科目）
- ② 学生指導スキルアップ  
パーソナリティ診断ツール PSA（以下 PSA と表記）を活用した個別対応力の向上（学生タイプの褒め方・叱り方スキル向上）
- ③ 新学科 又は新部門設立に向けた情報収集、準備、活動の継続

これらは学園の課題解決と学生気質等の時代の変化に適応するための目標であった。新型コロナウイルスが蔓延したり、落ち着いたりを繰り返す中、一時的に停止していたカリキュラムや活動を再スタートさせた1年であった。長年、全学科共通科目として実施していたヒューマンスキルプログラムは実施時期・方法・内容を各学科のスケジュールの変化等と照らし合わせて再構築を図って実施した。新入生研修も学生スタッフが主となって指導実践を行う方式から、学生スタッフ・教職員が共同で行う方法に変更。研修内容も厳しく躰ける実践中心の方式から、なぜこれが必要なのかを考え、落とし込みを図りながら実践を行う方向に変更して実施した。また、教職員が PSA を活用して学生個々のタイプを理解し、そのタイプに合った褒め方や声かけを繰り返し行い、寄り添う指導を行っている。良好な関係構築ができ、学生が教職員に本音を打ち明ける面談等も増加傾向にある。コロナ禍で重い空気を取り囲む中、退学率を抑えることができた主要因であると考え。一方で、教員が寄り添ってくれる環境の副作用として、甘えの目立つ学生も散見されるようになった。学生を受け入れつつも、必要に応じてたしなめていくスキルが教職員に求められている。

令和5年5月からは新型コロナウイルスも5類感染症に引き下げられるため、より活動的に行事や学外活動を行うことが可能になる。学生達が外部の方と接する機会も増え、外の刺激で触発され、大きく変化・成長することを期待している。そのためにも学生個人の個性（長所や得意分野）を伸ばし、活かすことが大切であると同時に、人間力や基礎力を伸ばすこと（安心して外に出せる人間であること）が、回り道のようにありながら最短距離であると位置づけ、指導を継続して行く。

これらの反省と次年度以降を見据え、令和5年度の重点項目は以下の3点とする。

令和5年度 重点項目

- ① 学園独自科目・行事の新開発、ブラッシュアップ  
(セルフマネジメント・ヒューマンスキルプログラム・社会貢献活動等)
- ② 基礎力の強化  
(対人関係調整力・コミュニケーション力・文章力・計算力・パソコン操作等)
- ③ 新学科 又は新部門設立に向けた情報収集、準備、活動の継続

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

自己点検・自己評価を行った結果を、評価項目別に記す

4：適切            3：ほぼ適切            2：やや不適切            1：不適切

※生涯学習センターは一部文言を入れ替えて実施している（入れ替え部分を欄外に記載）

#### (1) 教育理念・目標

評 価 項 目	前回	評価
1-1 学校の理念・目標・育成人材像は明確に示されているか	4	4
1-2 学校の理念・目標の実現に向け、特色ある活動が行われているか。	4	4
1-3 学校の理念・目標は教職員に共有されているか。	4	3
1-4 学校の理念・目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等 <sup>1</sup> に周知されているか。	3	3
1-5 学校の将来構想を描き、先を見据えた中期的構想を抱いているか。	3	3

教育理念・目標に対する取り組み、問題点など

- ・学園経営理念は短く意識しやすい文言にまとめている。

#### 【武田学園経営理念】

武田学園は教育活動と企業コンサルティングを通して人と企業を活かし、その結果として人と企業から活かされる学園であることを第一義とする。そのために我々は時代を先取りし、時代に適応して生き抜くために必要な教育ソフトとハードを広く社会に提供し、人と企業が勇気と希望を持って成

<sup>1</sup> 学生・保護者になる言葉「社会人受講生・企業」

長できるように指導する使命を持つ。

新しく入社した教職員に言葉・文言としてだけでなく、体験を通して体感してもらう機会を与えていくことが課題である。

- ・本校では2005年度より、入学前三者面談（1月～3月）を全入学生対象に実施している。1組につき約1時間、その場で学園の理念・方針などは具体的な事例を交えてお伝えしている。保護者から本音が聞けることも多々あり、非常に有益な時間であると考えている。また、入学後の三者面談も全学科で1回以上実施している。
- ・生涯学習センターでは中期的構想に基づき、社会人の働く環境（介護・子育て等のワークライフバランス）を考慮したキャリアの在り方を提案できるような社会人教育の提案を引き続き行っている。また、高齢者の受講生も多くなったところから対応を考えていかなければならないということも課題となっている。

## (2) 学校運営

評 価 項 目	前回	評価
2-1 理念・目標に基づき、学校運営方針が策定され、組織内で共有されているか。	4	4
2-2 人事考課制度、給与制度は整備され、共有されているか。	3	3
2-3 意思決定システムは確立されているか。	3	3
2-4 学生・保護者 <sup>2</sup> の意見・要望を反映した運営がなされているか。	3	3
2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	4

### 学校運営に対する取り組み、問題点など

- ・1月・4月に教職員全体会を実施し、その場で経営責任者から中長期展望および、年度重点方針が伝えられ、それを基に各学科が具体的方針・施策を策定・実行している。  
また、3月に部門別発表会を行い、学科・部門毎の年度計画、年度目標に関する発表、振り返りを行っている。
- ・年2回（前期・後期）授業アンケートを全学生対象に実施している。その際に、授業以外の意見・要望も記載できるように自由記載欄を設け学生の声を反映している。

---

<sup>2</sup> 学生・保護者に変わる言葉「社会人受講生・企業」

- ・教職員同士はクラウドサービスのドライブを活用して、同一ファイルを共有、共同で編集を行うようにして、業務効率化を図っている。また、このドライブには、学生も全員個人アカウントを持っており、教職員・学生間でもファイルや動画の共有ができ、印刷・配布・回収等の雑務を減らすことができている。また問題解説動画を作成しアップロードしている。そのため就職活動等で授業をオンタイムで受講できなくても、後から視聴・受講したり、理解が不十分だった部分を再視聴したりできるようにしている。
- ・社会人教育の運営に関する「民間教育訓練期間における職業訓練サービスガイドライン」に則り運営を行っている。(研修受講) しかしながら、「ガイドライン適合事業所認定」は現在受けていない。

(3) 教育活動

評 価 項 目	前回	評価
3-1 教育理念に沿って、各学科 <sup>3</sup> の目標・方針が策定されているか。	4	4
3-2 学科 <sup>4</sup> 等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	4
3-3 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	4
3-4 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	4
3-5 関係分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	3	4
3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3	3
3-7 職業教育に対する外部関係者 <sup>5</sup> からの評価を取り入れているか。	3	4
3-8 成績評価・単位認定、進級・卒業判定 <sup>6</sup> の基準は明確になっているか。	4	4
3-9 関連業界や外部とのネットワーク構築に優れた教員（本務・兼務含む）を確保し、外部との良好な関係を築けているか。	4	4
3-10 新たな知識・技術等を修得するための研修や外部講座に教職員を派遣しているか。	3	3

<sup>3</sup> 部署

<sup>4</sup> 職業訓練及び企業研修

<sup>5</sup> 外部関係者の定義が不明→受講生アンケートは毎回取って改善に取り入れている

<sup>6</sup> 成績評価・修了判定

3-11 職員の能力開発のための研修・勉強会等が行われているか。	3	3
----------------------------------	---	---

教育活動に対する取り組み、問題点など

- ・エアライン学科では、従来のエアライン系の基礎知識・技術習得、語学（特に英語力）を伸ばすための体制構築（補習等のサポート体制強化）ができています。
- ・キャリア支援センターと外部企業との繋がりが強化された結果、企業と学生のコラボレーション企画等も行われ、良好な関係作りが促進されている。また、令和4年度は企業の方が学内で直接、学生の就職活動の相談にのってくださる個別面談の機会を合計4回、設ける、30名以上の学生が参加させていただいた。
- ・教育課程編成委員会を年間2回実施し、感想だけでなく、アドバイス・ヒントをいただくことができている。業界に違いはあっても、共通した悩みを持たれている企業・団体が多く、改めて人間力の基礎を育成して欲しいと激励を受けている。
- ・エアライン学科とブライダル・ホテル学科は1年時の秋・冬にかけて、インターンシップを実施させていただいている。本格的な就職活動を開始する前に、インターンシップを経験することで、覚悟を持ってその業界の就職を目指すことを促している。また、逆に進路を変更する学生も若干名出ることもあるが、学生を社会人に育てるうえで、重要な学びの場となっている。  
エアライン学科は、岡山空港でのインターンシップを3年ぶりに受け入れ頂くことができた。（11月～12月中旬までの1カ月半、週3～4日程度実習に参加。）社員の方と同じように、早番・遅番の勤務もあり、体調や時間管理の大切さも学ぶこともできている。
- ・ブライダル・ホテル学科は、9月中旬から12月末までの3カ月半でインターンシップを実施。令和4年度より、県外での実習も可能となり、希望者が沖縄や鳥取へ出向いた。また、インターンシップ開始前には、ANAクラウンプラザホテル岡山にて2ヶ月間ホテル実習を受け入れて頂いた。宿泊（ベッドメイク、清掃）部門や宴会（会場準備、料飲サービス）部門など、全員が順番に体験させて頂き、直接ご指導いただいた。
- ・インターンシップでの学びを整理・定着させることを目的に、インターンシップ発表会をブライダル・ホテル学科で行っている。令和4年度も、15社の方々が参加して下さり、その場でコメントやフィードバックをして下さった。学生の成長を願い、厳しいご指摘もある一方で、変化・成長に対してのお褒めの言葉を頂戴することもあり、教員・学生共に大きな学びとなっている。
- ・インターンシップ以外の実習カリキュラムは以下の通り。

① 9/20 エアライン学科2年生イベント（オンラインツアー）

会 場：ル・メルシェ

JTB 岡山支社の方々にご指導いただき、事前撮影録画2か所、当日オンライン中継2か所の合計4か所を紹介。

② 12/15 エアライン学科1年生（観光ガイドブック作成及び納品）

納品先：岡山市ももたろう観光センター

おかやま観光コンベンション協会の方々にご指導いただき、岡山県の魅力を発信するガイドマップを作製。出来上がったガイドマップは、岡山市ももたろう観光センターに設置をさせて頂

き、その様子を山陽新聞様にも取材して頂いた。

- ② 7/30 ブライダル・ホテル学科2年生イベント（ウエディングパーティー）  
会 場：ダイニングバー クィーン  
レディアンズ社、花ふわわ社、PlusSeed 社に協賛、ご協力いただき、アイテム作成体験、ウエディングファッションショー等を実施。
- ③ 2/3 ブライダル・ホテル学科イベント（模擬結婚式）  
会 場：ザ・マグリット  
2年生中心で1年生もサポートに入って実施。例年、卒業制作と位置づけ、学内会場で行っていたが、外部会場をお借りするのは学科史上初の試み。実際に勤務されているマネージャー、シェフ、スタッフの方々と現場リハーサルを実施。また新婦役の実姉夫婦にもご参加いただき、より本番に近い雰囲気の中で挙行することができた。
- ④ 10/18 公務員学科 岡山ガス主催 ビジネスプランコンテスト 出場  
日本全国の大学・企業・NPO 法人などから寄せられた 148 チーム中 14 チームのみがファイナルに進出できる（突破率 9.4%）非常に難易度の高いコンテスト。公務員ビジネス1年生（事務系：17名）チームが一般社団法人未来創生学院 理事 三宅範行先生のご指導のもと、ファイナル進出を果たした。

令和5年度もこのような実習のカリキュラムは、継続する。教科書やマニュアルがないものに、考え、取り組む力を身につけていくために、学生時代から経験を積んでおくことを狙いとしている。転ばせないための指導ではなく、転んでもどう立ち上がり、向かっていくべきかを学ばせるように意識して指導を行っている。

- ・全学生を対象とした授業アンケートを年2回、全科目分実施している。概要は以下の通り
  - 4段階評価（4＝良い、3＝まずまず良い、2＝あまり良くない、良くない）
  - 各授業4項目実施（授業理解・講義方法・内容構成・授業価値）
  - 数値評価以外に講師ごとに良い点・不足の点を記述してもらう。
  - その他、意見、感想欄を設けて記述してもらう
  - 回収後、集計し全教員に公開標準的な数値に届かない、前回数値から改善が見えない、急激に数値を落としている場合などは、各学科長の指導のもと、改善計画を練り、実行している。
- ・常に新しい考え方や知識・技術を習得し、学生に還元していくためにも、教職員の外部研修派遣・招致は積極的に行う必要があると感じる。令和4年度は、12月27日に株式会社アビリティトレーニング 木下 晴弘様を講師にお招きし、モチベーションアップ、授業力向上をテーマに話を伺った。
- ・生涯学習センターでは例年、短期における職業訓練（2ヶ月・3ヶ月・5ヶ月・6ヶ月）を実施しており「知識習得」が中心となっている。独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構（ポリテクセンター岡山）の生産性向上支援訓練における、「IT人材開発」の分野においても一定の評価を受け信頼をいただけている。今後のデジタル人材の育成に関しては「活用できる人材育成」が急務であることから、引き続き企業に研修及び情報提供をしていくことにより、当センターの社会的価値を向上できるものと考えている。昨今、リカレント教育及びリスキリング叫ばれている時代背景において「時代に適応する人材育成」をさらに強化したいと考えている。

特に、AIの技術革新は目覚ましく「作る」より「使い、活用する」人材が求められているため、引

き続き研修カリキュラムを研究し社会に提供していきたいと考えている。

(4) 学修成果

評価項目	前回	評価
4-1 就職率（公務員試験合格率含む）の向上が図られているか。	4	4
4-2 資格取得率の向上が図られているか。	3	3
4-3 退学率 <sup>7</sup> の低減が図られているか。	4	4
4-4 卒業生・在校生 <sup>8</sup> の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3	4
4-5 卒業後 <sup>9</sup> のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3	3

学修成果に対する取り組み、問題点など

・就職サポート重点的項目

- 企業（医療機関）研究のサポート
- 履歴書、エントリーシート作成のサポート（ヒアリング・添削）
- 過去の試験情報の提供（先輩の受験報告書閲覧）
- 面接指導（模擬面接の実施）
- 個別面談（悩みの相談など）

これらを、各学科担任や担当講師、キャリア支援センター職員が協同して行っている。

- ・令和4年度、航空業界の採用活動が一気に回復。航空関係企業10社より内定を頂くことができ、業界就職を希望していた学生は全員航空業界へ進んだ。
- ・就職活動に消極的な学生が一定数いる。令和4年度も、キャリア支援センターと各学科担当教員が連携して、定期的に意識づけを行ったところ、就職希望者123名のうち105名が卒業までに就職を決めることができた。
- ・資格取得をサポートするために、授業のみならず、授業外（放課後等）補習、個別対応の時間を適宜取っている。社会に出て活躍するために、最低限必要な知識・スキルについては卒業必須資格として設定しており、たとえ卒業可能単位数を取得していても、必須資格が未取得の場合は留年の措置を取っている。令和4年度、公務員ビジネスコースでは2年生への進級要件として、卒業必須資格の全取得を原則と宣言し、学生マネジメントを行った。その結果、諸事情のある学生を除き、全員が資格取得を完了している。

<sup>7</sup> 退所率となるが、社会人の場合コントロールが困難（事例：介護・病気・早期就職）

<sup>8</sup> 受講生（すべての受講生に関して把握できていない。）

<sup>9</sup> 訓練修了後（大きな改善には至っていない）

- ・近年の卒業生が頻繁に訪ねてきてくれたり、卒業生を招いての講演、講義を行ったりするため、新入社員や若手社員側から見える不足点の聞き取り量は豊富である。また、卒業生に対して、キャリア支援センター職員が定期訪問し、勤務状況の聞き取りや直接面談も行っている。そこで得られた卒業生情報は教職員のWEB 掲示板等で情報共有されている。
- ・生涯学習センターが実施している職業訓練に関しては、ほぼ 100%の修了率ではあるが一部退所を余儀なくされる場合もある。その背景は、家庭環境の問題（介護・育児・家族の病気）によるものが殆どである。更に増加傾向にあるのが精神疾患を抱えた受講生であり、受講の継続面及び公的機関にも働きかけ連携した対応が必要であると考えている、また、そのほかの健康問題を抱えた受講生も増えており職業訓練全体の問題でもあると考えている。

(5) 学生支援

評 価 項 目	前回	評価
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	4
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか。	4	4
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	4
5-4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	3	3
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3	3
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか。	3	3
5-7 保護者と適切に連携しているか。	4	4
5-8 卒業生をフォローアップする体制が整備され、機能しているか。	3	4
5-9 同窓会が組織化され、活発に活動をしているか。	3	3
5-10 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	3

学生支援に対する取り組み、問題点など

- ・学生への支援は学校全体で行っている。特に、対面での個人面談を数多く実施しサポートしている。
- ・学生の健康管理については、学生本人の自己管理（食事摂取・十分な睡眠、休養を取る等）が最も重要な要素である。生活リズムが乱れている学生や、過剰なアルバイト等で規則正しい生活が送れていない学生には、担任が指導・説諭を行っている。



- ・学生への経済的支援策として、「入学時特待生制度」「進級時特待生制度」「卒業時報奨金制度」がある。株式会社ウェーブハウス様が、学生を支援して下さる「ウェーブハウス奨学金制度」もある。また、令和3年度より、「修学支援新制度」の対象校の認定を頂くことができている。
- ・学生数の数倍の貸与用マスクや殺菌消毒用アルコール液を準備、備蓄できている。各号館に簡易的な保健室や救急箱・AEDも配備している。また、教職員・学生の一部は救急法安全講習を受講修了している。
- ・学校公認のクラブが8部存在し、のべ190名以上が所属していた。(兼部可能)各部に担当顧問教員が付き、対応している。部活動予算もあり、消耗品の購入等に充てている。  
令和4年度は卓球部員が全国専門学校卓球選手権大会シングルスで第3位、野球部が令和4年度全国専門学校軟式野球交流大会(選手権代替大会)で第3位となった。
- ・全ての学科で、卒業生を授業時間に招いて、現場の声を直接学生に伝える機会を設けている。
- ・保護者との連携に力を注いでいる。子息の成長を感じていただくこと、学生からの感謝の言葉を伝えること等に重点を置いている。定期的を送付する履修状況報告書、卒業発表会、卒業式典内で実施している感謝の言葉(感謝の手紙を本人が読み上げる)等で学生本人の想いを保護者に届けている。保護者の感動する姿や喜ぶ姿が学生の成長に繋がっている。
- ・同窓会が組織されており、2008年には創立30周年記念式典、祝賀会を岡山プラザホテルにて実施した。また、2018年には創立40周年を記念し、保護者招宴会をANAクラウンプラザホテルにて開催している

(6) 教育環境

評価項目	前回	評価
6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	4
6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、外部研修等について十分な教育体制を整備できているか。	3	3
6-3 <sup>10</sup> 防災に対する体制は整備されているか。	3	3

教育環境に対する取り組み、問題点など

- ・各種検定試験会場として施設の利用を行っている。また、外部企業のセミナーの実施に利用していただけるように案内もしている。
- ・岡山市消防局の指導のもと、適切な防災設備(防火シャッターの自動化等)の刷新、設置を行っている。各建物に防火責任者(講習受講済み)を配置している。自主的な避難訓練も実施している。

<sup>10</sup> 防災訓練等を行っていない。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	前回	評価
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか。	4	4
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	4
7-3 学納金は妥当なものとなっているか。	4	4

学生の受入れ募集に対する取り組み、問題点など

- ・学生募集活動はオープンキャンパス開催、学科イベント举行、高校訪問・高校内ガイダンス授業への参加等を中心に行っている。その際に、学園として都合の良い情報や成果だけでなく、不利になるような情報、結果も隠さずに伝えることで、信頼関係の構築を真摯に図っている。(学生の退学事例、就職活動結果等)
- ・全学生が行う取り組みで履修状況報告書の作成、送付がある。これはお世話になった恩師や両親に、学校での学びや現在の所感を報告書形式でまとめ、郵送する取り組みである。定期的に送付するため、学生の内面の変化・成長を文面から感じていただき、好評である。

(8) 財務

評 価 項 目	前回	評価
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	4
8-2 財務について会計監査が適正に行われているか。	4	4
8-3 財務情報公開の体制整備はできているか。	4	4

財務に対する取り組み、問題点など

- ・財務情報の公開を行っている。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	前回	評価
9-1 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4	4
9-2 個人情報に関し、その保護のための政策がとれているか。	3	3
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	4

9-4 自己評価結果を公開しているか。	4	4
---------------------	---	---

法令等の遵守に対する取り組み、問題点など

- ・個人情報保護のために最低限のルールは守られている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	前回	評価
10-1 <sup>11</sup> 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	3
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	4
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	4	4

社会貢献・地域貢献に対する取り組み、問題点など

- ・全学科の共通科目「ヒューマンスキルプログラム」は、地域貢献・社会貢献活動を行うことが主とした授業である（1年生前期）。令和4年度は、コロナが落ち着いてきたことで、学生だけのボランティア活動にとどまらず、学外の組織・団体様での活動も再開。おかげで多岐にわたる活動が実現し、貴重な学びの時間を頂戴することができた。また、授業外でも関係施設からの委託や岡山駅西口交番と連携した企画等を学生に提示し、地域ボランティア活動を奨励している。
- ・コロナ禍において、子育て・介護中の女性を中心とした「在宅ワーク講座」の開催が難しく。コロナの問題が収まってからの継続的な取り組みを考えている。半面、企業研修（デジタルスキル関連）が増加傾向にあり、引き続き対応をしていくこととしている。

以上

<sup>11</sup> 検定会場等の貸し出しを含めているが、この項目に該当するかは不明